

管 理 会 計 論

本試験

問題 2 次の〔資料〕に基づき、当月（4 月 1 日から 4 月 30 日まで）の間接労務費および賃率差異の正しい組合せとして最も適切なものの番号を一つ選びなさい。（7 点）

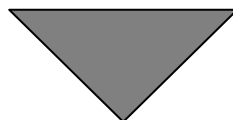
〔資料〕

1. 工員への賃金の支払は、前月 21 日から当月 20 日までを給与計算期間としている。
2. 給与計算期間（3 月 21 日から 4 月 20 日まで）における、直接工に対する賃金支払額は 6,000,000 円、間接工に対する賃金支払額は 4,000,000 円である。
3. 直接工に対して予定消費賃率 800 円／時間を採用している。
4. 直接工作業時間票等の要約（4 月 1 日から 4 月 30 日まで）

加工時間	6,600 時間
間接作業時間	380 時間
段取時間	430 時間
手待時間	120 時間
合 計	7,530 時間
5. 間接工の賃金消費額は、当該原価計算期間における要支払額をもって計算する。
6. 3 月 21 日から 3 月末日までの未払賃金は 600,000 円である。このうち、直接工に対する未払賃金は 400,000 円、間接工に対する未払賃金は 200,000 円である。
7. 4 月 21 日から 4 月末日までの未払賃金は 500,000 円である。このうち、直接工に対する未払賃金は 350,000 円、間接工に対する未払賃金は 150,000 円である。
8. 当月のその他の労務費

給料	1,080,000 円
従業員賞与引当金繰入額	860,000 円
退職給付費用	630,000 円
法定福利費	220,000 円

	間接労務費	賃率差異
1.	6,920,000 円	26,000 円(不利差異)
2.	6,920,000 円	26,000 円(有利差異)
3.	7,140,000 円	26,000 円(不利差異)
4.	7,140,000 円	74,000 円(有利差異)
5.	7,240,000 円	74,000 円(不利差異)
6.	7,240,000 円	74,000 円(有利差異)



## 短答ポイントアップ答練 第3回

**問題2** 次の〔資料〕に基づき、当月(7月)の間接労務費および賃率差異の金額の組合せとして最も適切なものの番号を一つ選びなさい。なお、原価計算期間は暦日の1か月であるが、給与計算期間は前月の21日から当月の20日までであり、計算に当たっては、我が国の「原価計算基準」に従うものとする。(7点)

### 〔資料〕

#### 1. 直接工のデータ

当月加工時間	1,800 時間
当月間接作業時間	200 時間
当月段取時間	300 時間
当月手待時間	(注) 100 時間
年間予定賃率	1,200 円
当月支払賃金(6月21日～7月20日)	2,790,000 円
前月未払賃金(6月21日～6月30日)	936,000 円
当月未払賃金(7月21日～7月31日)	1,008,000 円

(注) 内訳は、工程管理者にとって管理可能な原因に基づく手待時間が 80 時間、管理不能な原因に基づく手待時間が 20 時間である。

#### 2. その他の当月のデータ

間接工賃金(要支払額)	1,902,000 円
給料(要支払額)	824,000 円
従業員賞与引当金繰入額	282,000 円
退職給付費用	222,000 円
福利費	276,000 円
厚生費	184,000 円
福利施設負担額	166,000 円

	間接労務費	賃率差異
1.	3,842,000 円	18,000 円(有利差異)
2.	3,842,000 円	90,000 円(不利差異)
3.	4,026,000 円	18,000 円(有利差異)
4.	4,026,000 円	90,000 円(不利差異)
5.	4,192,000 円	18,000 円(有利差異)
6.	4,192,000 円	90,000 円(不利差異)